

夏期研修会 《文学散歩&ワークショップ》

1. 実施日時 8月3日(水) 9:00~11:30 文学散歩
13:30~16:30 講演会(ワークショップ)

2. 実施内容

①文学散歩(参加11名)



午前中は名著「諏訪の伝説シリーズ」を執筆された、故竹村良信先生の奥様、澄子先生とともに歩く文学散歩が2年ぶりに復活。今回は茅野宮川安国寺の上社前宮境内と杖突峠にて、宮川地籍にまつわるお話を中心にお聴きしました。

前宮では『ムジナをやっつけた尼さん(「諏訪のむかし話」より)』『お明神さま(「諏訪のでんせつ」より)』の二つのお話をお聴きしました。諏訪大社の縁起にもつながる、建御名方神のお話をお聴きした後、前宮本殿にお参りし御柱を見て回ることで、諏訪郡出身ではない出席者の方々に、より諏訪の郷土文化への理解、愛着を抱いていただけたかと思えます。



杖突峠では『永明寺山の猿と西山の猿(「諏訪の民話」より)』『小泉山と大泉山(「諏訪のでんせつ」より)』、そして『作じっさとオオカミ(「諏訪のむかし話」より)』の3つのお話をお聴きしました。杖突峠から見える諏訪、茅野の眺望、小泉・大泉山などの景色を見ながらお話を聴くことで、より臨場感を味わえました。とりわけ「作じっさとオオカミ」に出てくるオオカミの悲しく、切ない声は澄子先生ならではの味わい深いものでした。



文字で書き表された諏訪に伝わる物語の数々ですが、そのお話の場所を実際に見ながら、澄子先生の発せられる優しい、そして力強い昔ながらの諏訪の訛りのある発声でお話を聴くと、一昔前に戻ったかのような、タイムスリップした気分を味わえました。心の癒されるひとときでした。

澄子先生は御年87歳でいらっしゃるそうですが、未だに山歩きをなされるとのこと。来年度は霧ヶ峰、七島八島のほうに出かけたいと仰っていただき、来年度もまたご一緒することをお約束して文学散歩は終わりました。

参観者の感想から

- ・郷土に伝わる伝説や昔話の楽しさを感じることができました。活字を追うのでなくお話を聞く楽しさを感じました。ぜひ子どもたちに諏訪の伝説を秋の読書旬間で紹介したり読んだりしてあげようと思いました。
- ・普段行けない、前宮周辺を歩くことができ勉強になりました。お話を通していっそう住んでいる人の歴史を感じることができました。
- ・味わい深い、竹村先生の語り口、機会があったらまた来年もお聞きしたく思いました。

②講演会&ワークショップ（参加17名）

午後は教育会館201・201号室にて、信州大学教育学部教授の藤森裕治先生による、ワークショップ中心の講演会が行われました。

藤森先生は学校現場での経験がある方なので、私たちの日々の授業づくりの悩みを受け止めつつ、文科省によって打ち出されている「アクティブ・ラーニング」を取り入れ、考えた授業を、どう構築するか、私たちがそうした授業を作る上で何を大切に考えるべきか、具体的な事例・指示を交えつつお話をしてくださりました。



藤森先生の提唱されている「Bマップ法」を使いながら、即席俳句を作るという活動をしながら、俳句を作るという活動のどこに、どんな「思考」を私たちは働かせているのか、そこにどんな意味があるのかを、私たちが俳句を作る中で解説、解き明かしてくださいました。



私たちが生徒となり俳句を作る過程で、教師としての指示の出し方、評価の仕方などの確かなアドバイスをしていただきました。2人一組で作った「俳句」はどれも味わい深いものでしたが、そのどれも藤森先生は「意味づけて」下さいました。私たちはとかく子どもが作った作品にとやかくもの申すときがありますが、その作品を作り出す過程においてアドバイスをするのはいいが、作り終わったものに「後出しで口出し、評価してはいけない」とも教えていただきました。ほめる、評価する基準の考え方もなるほどと思わされるものばかりでした。



いずれにしろ、どのような授業スタイル、内容であろうとも「授業の課題と見通し」が教師の中でぶれないことが大切であるとも教えていただきました。藤森先生の授業、講義を受けていると、こういう楽しい授業を、子どもたちしてみたいと思えるから不思議です。

参観者の感想から

- ・「俳句を作る」という創作的、体験的な活動であったことと、この日初めて出会った人との共同作業であるということから、とても刺激的で楽しく学べました。
- ・新しい授業の方向について、体験を通して知ることができました。藤森先生の即答される作品についての評価、豊かな知識と心の温かさの含まれた言葉がけがとても参考になりました。
- ・3時間のワークショップがあっという間でした。時間を忘れ、没頭して俳句作りを行いました。その節目節目での藤森先生の学習としての意味づけがとても勉強になりました。先生方の作品、とてもすてきで感動しました。

3. 反省、成果や課題

○今年度は若い先生方の主体的な参加が多く、大変嬉しかった。しかし他の研修や校内事情により参加できなくなった先生方もおり、より多くの方、会員に参加していただくために、開催時期や日程を工夫したい。

○藤森先生の教え子で現在民間の学習塾に勤務されている方に、一般参加していただいた。こうした他業種の方とのつながりも、これからの私たちの研修には必要だと感じられた。